

# つなぐ、地域と大学の27年

神戸大学災害・復興ボランティアの全国展開と地域連携のこれから

今後長く活動を続けていくために、活動の場を広くする

新メンバーの獲得に努力する

現在の情勢や地域交流の在り方に合わせた活動の展開

丸森町被災地へ復旧に向け定期的に伺い、戸別訪問などを通じて「取り残されている」人たちへの支援を継続的に行う



「震災後から続く、地域に根差した活動」

神戸大学総合ボランティアセンター  
代表 松本 瑞樹

5月10日 総ボラ設立

3月11日  
東日本大震災



「『多重被災』宮城県丸森町での支援活動」  
神戸大学持続的災害支援プロジェクトKonti  
代表 杉山 紗也乃

5月13日 Konti 設立

4月14・16日  
熊本地震

2021

地域連携推進本部  
ボランティア支援部門設置

2016

2012

キャリアセンター  
学生ボランティア支援室設置

4月30日 ボラバス設立

団体の継続についての意義

1月17日  
阪神・淡路大震災

1995

都市安全研究センター  
学生ボランティア支援室設置

2008

1月23日 救援隊設立

来年に向けた引継ぎ



「復興から、まちと繋がる学生団体へ」

神戸大学学生震災救援隊  
代表 植田 文嗣



「東日本大震災被災地の学生ボランティア活動」

神戸大学東北ボランティアバスプロジェクト  
代表 中村 莉央 / 川崎 湧太

コロナの活動制限があっても地域や他団体、根本的な学生同士の繋がりを維持し続ける仕組みをつくりたい

コロナで活動ができない状況があった。学生が団体に在籍できる期間は、就職活動等を考えると2~3年くらいに限られ、活動におけるノウハウが継承し尽くされない

発災から10年以上が経過した東日本大震災の被災地で大学生が「ボランティア活動」として出来ることが見えない

学生ボランティアは4年という限られた期間の中で、毎年、学年メンバーが入れ替わりながら活動を継続する特殊な環境です。新型コロナウイルス感染拡大防止対策の2年におよぶ活動制限も様々な形で影響を与えています。本シンポジウムでは神戸大学の学生・教職員と地域の方々が阪神・淡路大震災発生から兵庫県、全国で実践してきた災害・復興ボランティア活動を紹介するとともに継続的な活動支援に向けて地域社会全体で支える仕組みを考えます。

## 神戸大学

開会 理事・副学長・地域連携推進本部長 奥村 弘  
コメント 神戸大学都市安全研究センター教授 近藤 民代  
閉会 地域連携推進本部副本部長・農学研究科教授 田中丸 治哉  
司会 地域連携推進本部地域連携教育部門長特命准教授 松下 正和  
コーディネーター 地域連携推進本部ボランティア支援部門長特命准教授 山地 久美子

## 地域・応援団

〔地域〕  
なぎさふれあいのまちづくり協議会委員長 門脇 龍三 (HAT 神戸)  
NPO法人エフエムわいわい代表 金 千秋 (神戸大学GSP研修型プログラム・受入れ)  
NPO法人神戸まちづくり研究所理事長 野崎 隆一  
一般社団法人おらが大槌夢広場・大槌町地域おこし協力隊 北浦 知幸

## 先輩

一般社団法人みくもや理事/救援隊OB 坪田 卓巳

## 〔旧〕神戸大学学生ボランティア支援室

福島大学地域未来デザインセンター特任准教授/総ボラ・救援隊OB 藤室 玲治

2022年10月23日(日)  
10:30~12:00

会場 ALL HATひとぼうステージ

場所 HAT神戸・なぎさ公園 ぼうさいこくたい会場内  
阪神岩屋駅から南へ約500m/JR灘駅から南へ約700m  
雨天時は状況判断

参加申込(事前登録) お問合せ

お名前・ご所属等・Eメール・当日の連絡先・都道府県/市町村を記載の上、下のいずれかの方法でご登録ください。

Googleフォーム(右QRコードから)  
https://forms.gle/L2dMbjgSascsi5Xe7  
Eメール crsu-vol@office.kobe-u.ac.jp

電話 078-803-5391

(事務:研究推進部連携推進課)

HP https://www.office.kobe-u.ac.jp/crsu-chiiki/

ALL HATひょうご防災フェスタ2022  
https://hitobou.com/allhat/2022/

主催: 神戸大学地域連携推進本部



神戸大学創立120周年記念事業